

令和元年度（平成31年度） 学校評価実施報告

蜂ヶ岡中学校

教育目標

人とのつながりを大切にし、たくましく生き抜く生徒の育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 良好な人間関係の元での教育活動を目指し、様々な場面で生徒や教職員へ向けて発信してきた。しかし、課題が多く、次年度さらに、つながりを大切にした教育活動が必要であり、信頼を得られる取組を目指す。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 生徒には、基本的な生活習慣を大切にして生活を送って欲しい。家庭・学校とも課題を共有し、土台をしっかりと固め、活動を進めることが大切で、地域も協力したい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年11月22日（金）	学校運営協議会
最終評価	令和2年 2月14日（金）	学校運営協議会

（1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「働き方改革」を通じて、持続可能な形で教職員の授業に向かう意識を高め、新学習指導要領に向けて授業改善を推進し、毎時間の授業を大切にする生徒を育成する。

具体的な取組

- ・各学年・各教科の宿題の把握と、家庭学習の定着に向けての調査・分析・発信を機能させる。
- ・授業を進めるにあたり、本時の目標や本時のまとめ、本時の評価観点をしめすと生徒は安心できる。
- ・授業のなかで対話的活動や協同学びで学習する方法を推進する。
- ・読書の奨励を推進する。豊かな発想を生み出し、対話・コミュニケーション力を高めるねらいで、中学生用には朝読書を継続し、読書部を中心に児童館・保育園に読み聞かせに行く取り組みをすることで、地域の将来を担う人材に本に触れる機会を増す。
- ・若手に限らずOJT研修会に取り組み、指導力・教師の力量を高める。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・アンケート 家で予習・復習・宿題に取り組めていますか？
- ・アンケート 授業の内容は理解できていますか？
- ・学習確認プログラム、全国学力・学習状況調査の指数100

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価アンケート（生徒）「家で予習・復習に取り組めていますか？」肯定意見 60. 9%
- ・「進んで読書をしていますか？」 53. 8% 、「授業の内容は理解できていますか？」 80. 0%
- ・学習確認プログラム 3年生指数 93 / 2年生 92 で昨年度から追跡してみるとやや下降きみ

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">・6割の生徒は例年通り家庭学習に取り組めている・全国学力の生徒質問紙によると、3年生は家庭学習2時間以上の生徒は全国と同様であるが、30分以内や全くしない生徒が全国より割合が多い
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">・3年生については、後半進路に向けての意識向上の機会が増えるので、改善の見込みがある（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標・家庭学習の取り組みに関するアンケート
	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・本年度、3年生は全国学力で国数英とも全国平均を下回っている。英語については、昨年度から話すことを中心に力を入れてきたが、スピーチングの成果があらわれていないが、継続が大切。（スピーチング以外の技能は伸びてきたことはよかったです。）
学校関係者評価	

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・学校評価アンケート（生徒）「家で予習・復習に取り組めていますか？」肯定意見 59. 1%
- ・「進んで読書をしていますか？」 49. 7% 、「授業の内容は理解できていますか？」 83. 6%
- ・学習確認プログラム 3年生指数 94 / 2年生 94 で昨年度から追跡してみるとやや上昇

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none">・授業改善で集団による学び等を取り入れる授業が増え、対話的で深い学びへと向かっている。・3年生家庭学習は 66. 9% と 7月アンケートよりも上昇したが、1・2年生は約半数止まり。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">・テスト前の家庭学習の時間把握はできているので、日常に生かせるようにしたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・英語の授業において、即興性をテーマにされた授業は、その場で考え発信することは難しいと思うが、続けることが大切であると思う。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

昨年度の創立 70 周年記念式典での中学生の取り組みが、生徒・地域に豊かな心の発信の場となつたことを引継ぎ、幅広く地域へ「豊かな心」の発信に向けて取り組む。

具体的な取組

- ・現在の蜂ヶ岡中学校の文化で「豊かな心」を一番感じることは「合唱コンクール」である。生徒・保護者・地域の方々に心動かす取り組みを継続する。
- ・規範意識を確実に身につけ、情報モラルを意識して、いじめを許さない集団づくりを意図的、計画的に推進する。
- ・不登校生徒に対する取り組みの強化。
- ・道徳教育のさらなる充実を図る。
- ・自分を律し、相手を尊重する意識を育て、人権学習で、教材を吟味し実践する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校は生命や人権を尊重する意識を育てるよう取り組んでいますか？
- ・生徒の感想と、授業参観をはじめ、学校全般や行事に対する保護者・地域の方の意見。

中間評価

各種指標結果

- ・「赤ちゃん交流」「命のガン教育」「人権学習」を企画し、取り組む。
- ・合唱コンクールは、豊かな心を育成するのに有効な行事としてとらえている。生徒の活動は大変、素晴らしいだった。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">・一部課題があり、今後落ち着きが必要であるが、合唱コンクールは、どのクラスも豊かな表現力で、全校が一つになれた時間を過ごせた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">・人とのつながりを大切にすることを中心に据えて、教職員が同じ方向を向き、人が育つ学校を目指す。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケート「楽しく学校生活を送っていますか？」・学校評価アンケート「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか？」・学校評価アンケート「先生はさまざまな相談に応じてくれますか？」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・全校合唱を含めて、合唱コンクールは素晴らしいが、教職員合唱は努力してもらいたい。 (生徒は頑張っているのだから)・学校が落ち着いて学習できるように、心豊かに導いてもらえるようにお願いしたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・学校評価アンケート「楽しく学校生活を送っていますか？」 96.8%
- ・学校評価アンケート「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか？」 97.5%
- ・学校評価アンケート「先生はさまざまな相談に応じてくれますか？」 90.9%

自己評	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none">・規範意識を高め、集団の成長を目指した取組を進めてきた。アンケート結果は概ね良好な数値は得られたものの、出来きていない面が目立った。

評価	分析を踏まえた取組の改善 ・人とのつながりを大切にすることが目標であることは、生徒・教職員にも伝える場面が増えてきているので、徐々に浸透していると思う。さらに教職員が同じ方向を向き、人が育つ学校を目指す。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・豊かな心を育む取組を進めている中で、大半努力していると思うが、全体を通して不安感はある。学校・家庭・地域が同じ方向を向いて、地元で子を育てるという思いをもっている。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

昨年度「性教育」では、自己・他者とも体を大切にすることを学んだ。本年度も保健活動をさらに充実したものにし、健康管理の意識を高めるように取り組む。

具体的な取組

- ・各学年相応の性教育を実施し、自己・他者とも体を大切にすることを学んだ。本年度も保健活動をさらに充実したものにし、健康管理の意識を高めるように取り組む。
- ・蜂ヶ岡中の生徒の活動や取組の結果を全校や地域に発信し、スポーツへの理解・関心を高めて、自らの身体と健康管理について意識を高める。
- ・「保健だより」を有効活用し、自主的に健康な生活を実践する態度を養える保健室経営を行う。
- ・食事、睡眠、運動、休養など調和のとれた生活を送れるよう健康観察週間を実施する。
- ・喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する講演会や教室を実施。
- ・保健委員会による健康管理等についての啓発活動の充実を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒の生活習慣を調査し、把握しながら「保健だより」等で発信する。
- ・授業をはじめ活動に対する生徒の感想と、保護者・地域の方の意見。

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「朝食等、基本的な生活習慣が定着するように心がけている？」 84. 2% ・学校評価アンケート「部活動・生徒会や係活動に積極的に取り組んでいる」 89. 1%
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導者の方針や生徒・保護者の要望もさまざままで、課題が残っている。 ・健康に関して、定期的な発信もおこない、講演会等計画通り企画運営している。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要望も多岐にわたり、聞き取り・話し合いを大切にし、教育の場として在り方を考え、生徒へ健全な精神が宿るよう改善していく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「部活動（引退まで）生徒会活動に積極的に取り組んでいましたか？」

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・組体操（昨年度まで実施していた取組）に変わるものとして、全校生徒による演技エイサーを実施したことはよかったです、体育委員会がリードしたことがあまり発信されていないことが残念であった。 ・講演会等はよいことなので、さらに発展してほしい。

最終評価

自己 評 価	中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「部活動（引退まで）生徒会活動に積極的に取り組んでいましたか？」 肯定意見 88.5 %
	<ul style="list-style-type: none"> 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・部活動への参加は積極的である。 ・各学年の健康に関する取組は年々充実した形に落ち着いてきた。 ・今後は身に見えにくい「心の健康」について着手したい。
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善 <p>アンケートを中心に「心の健康」について分析・発信していく。</p>
	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年ごとの健康に関する取組が確立してきたことは評価できる。講演も適切な指導者の人選を今後とも継続されたい。

（4）学校独自の取組

重点目標	小中一貫教育を推進し、 9年間の教育目標として「夢と誇りを持ち、社会をたくましく生き抜く子の育成」を目指す。
	具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導、英語教育、キャリア教育を軸として取り組みを充実させる。 ・特に英語教育は教職員の連携を密にして、教材・指導法の効果的な交流を企画する。 ・児童会・生徒会の交流を行う。 ・小学校6年生の中学校体験（部活動見学・体験、学校説明） ・学習確認プログラム及びジョイントプログラムの結果、言語活動の取組を軸にした小中合同研修会 ・人権指導について相互に授業を参観し合い、小中の指導の系統性をもたせる。 ・小中合同研修会を実施し、生徒理解や授業力向上について研修を深める。 ・小中一貫教育の視点をふまえた学校評価の検討と実施
(取組結果を検証する) 各種指標	(取組結果を検証する) 各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と児童会の共同作業による、児童生徒の感想・意見 ・英語4技能の内、「話すこと」に関するG T E Cの検証
中間評価	
	各種指標結果

中間評価

各種指標結果

- ・夏休み前にリーダー研修会で製作したあいさつ運動のぼりを小学校でも使えるように工夫できた。
- ・G T E Cの検証として、パフォーマンステスト等を頑張ってきたが、スピーキングが結果としては後退した。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・本校では、あいさつ運動にのぼりを使用して、活気が出てきたと感じている。小学校児童会と共同しての活動ではなかったが、少しでも進歩した。 ・小中合同研修の成果として、昨年度から取組である「つながるのある授業に向けて」が冊子として形になり、小中9年間の連携した授業形態を小中の教職員に配布出来た。 ・話すことに重点を置き、授業改善してきたが、話すこと以外のリーディング・リスニング・ライティングのスコアはアップしている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校側がリードし小学校へつないでいる形であるが、今後は連携協力した取組に仕向ける。 ・スコアアップしていることは、良好な結果であるので、この調子で授業を継続していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒の取組の感想 ・学習確認プログラムの英語の伸び率
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携が進んだことはよかったです。 ・これからの中学校において、英語は重要と思うので、重点を置いて指導を望みます。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に小中の連携として、つながりが持てたことは前進できたと思う。 ・学習確認プログラム10月のBas1の英語は指数102
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の英語について、最初の数時間の取組で、スタートプログラムを意識した授業で、スムーズに小中連携ができたことが成果であり、次年度も続けたい。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の英語の少人数授業は有効であるので継続したい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校から中学校への英語教育がスムーズに行われていることが実感できる。 ・小中合同研修での教科共通の目標設定や生徒会・児童会の交流が進んだことは良かった。

（5）業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標
全教職員が働き方改革に目を向け、効率の良い教育活動を推進する。

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の精選・工夫 ・学校運営上のシステム改善・見直しと会議の効率化 ・電話対応は原則午後8時までとする。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・教職員の年休取得率

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ・10月末で超過勤務月平均100Hを超えた教職員は約2割 ・10月末で超過勤務月平均80Hを超えた教職員は約1割 ・10月末で超過勤務月平均60Hを超えた教職員は約3割 ・10月末で教職員の年休取得は平均7日 ・行事の精選・工夫、年休取得推進、会議の効率化で、教職員の負担軽減
自己評価
<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話対応時間の設定とプリント配布で、一定の保護者理解はあるものの、緊急の事案はやむを得ず、きちんとしたルールにはなっていない。
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職の声かけによる勤務時間縮減の取り組みを継続
<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・教職員の年休取得率
学校関係者評価
<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革推進する時代で、子どもたちを育てる上で、難しさを感じている。 ・子どもを真ん中において、学校経営をすることを忘れないでほしい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ・年度末で超過勤務月平均100Hを超えた教職員は15%（10月末は約2割） ・年度末で超過勤務月平均80Hを超えた教職員は13%（10月末は約1割） ・年度末で超過勤務月平均60Hを超えた教職員は28%（10月末は約3割） ・年度末で教職員の年休取得は平均11.6日（10月末は平均7日） ・以前に比べると超過勤務時間が減少していると思うが、一部の教職員に負担が大きくかかっていることもあるので、改善の余地がある。
自己評価
<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年休の取得率も増加傾向にある。
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職の声かけによる勤務時間縮減の取り組みを継続

学校関係者による意見・支援策

・社会全体が働き方改革ということで、全市的な動きであるが、電話対応時刻設定も留守番電話利用等進んでいる。子どもを育てる上で、時間縮減の言葉が一人歩きすると寂しい気もある。